

令和6年度中部近畿地方鉱山保安協議会中部地区部会議事概要

日 時 令和7年3月17日（月） 13時30分～15時30分

場 所 中部経済産業局総合庁舎2階大会議室

及びオンライン（Microsoft Teams 会議）によるハイブリッド開催

1. 議事

【議決事項】

（1）中部近畿地方鉱山保安協議会中部地区部会運営要領について

【報告事項】

（1）中央鉱山保安協議会（令和7年3月10日開催）について

- ①鉱山における高頻発災害の現状と対応の方向性について
- ②火薬類取扱所の盗難防止措置（警鳴装置）の運用見直しについて
- ③第14次鉱業労働災害防止計画の取組状況について
- ④鉱山保安マネジメントシステムに関する一部見直しについて
- ⑤特定施設に係る鉱害防止事業の実施に関する基本方針（第6次）の取組状況について
- ⑥全国鉱山保安表彰の見直しについて
- ⑦CCS事業法について

（2）令和6年度中部近畿産業保安監督部における鉱山保安に係る取組等について

（3）令和7年度における鉱山保安に係る取組について（案）

【意見交換】

（4）その他

2. 議事概要

【議決事項】

○中部近畿地方鉱山保安協議会中部地区部会運営要領について（資料1）
質疑なし。事務局案のとおり可決。

【報告事項】

事務局より各事項について報告した。議事は以下のとおり。

○中央鉱山保安協議会（令和7年3月10日開催）について（資料2）
質疑なし。

○令和6年度中部近畿産業保安監督部における鉱山保安に係る取組等について（資料3）
質疑なし。

○令和7年度における鉱山保安に係る取組について（案）（資料4）
質疑なし

【意見交換】

（委員）

- ・監督部が手厚い仕組みを色々作って鉱山における安全性の向上に取り組まれていることは、鉱業権者の方および労働者の方はよく御理解されていると思う。
- ・監督部の職員による講話や、保安研究会の催し、表彰による意識の向上を図る取

組などについて理解できた。

- ・更に、こんな資料、取組があると良いなどのご要望があれば、委員からご発言をお願いしたい。

(委員)

- ・弊社では昨今の人手不足、要員確保は保安に直結していると考えている。
- ・他の鉱山は人手不足、要員確保にどのように対応されているか。新規就業者に対する教育はどうしているかお伺いしたい。

(委員)

- ・人手不足は深刻。重機オペレーターをはじめ女性活用を図っている。
- ・外国人でも教育することで安全な作業はできる。しかし、資格取得となれば日本語の問題がありハードルが高い。
- ・日本で働きたいという海外の方は多い。海外から来た人が勉強をして資格のハードルを越えて日本の鉱山で働けるようになることを要望している。

(委員)

- ・鉱山における安全衛生の向上においては、若年者への教育に加えて外国人等の増加に伴う多言語化等、教育についてのご意見があったと承知した。監督部としてはいかがか。

(事務局)

- ・多言語化等、本協議会でいただいたご意見については本省に報告させていただく。

(委員)

- ・人手不足は建設業などでも深刻な課題。我々も学生にPRしていかなければと思っており、良い手立てがあればと思っている。
- ・激甚化する自然災害について、最近は南海トラフが懸念視されている。鉱山では残土・残渣の置場などについてどのような対策を検討されているのか、ご教示いただきたい。

(事務局)

- ・東日本大震災において、たい積物の流出が発生したことを踏まえて技術指針の強化によりレベル2地震動への対策を検討・対策工事に取り組むほか、たい積物の発生源対策として中和殿物等たい積物の減容化などの検討も行っているところ。

(委員)

- ・リサイクル法が制定され、普及が進んでいるところ、鉱山においては鉱業によって生じた2次副産物、例えば石灰石鉱山において脱水ケーキの利用に困っているという声を聞く。亜炭廃坑の充填剤として使うという検討などもあるが、現場がないことには利用ができない。鉱山でも2次副産物の活用検討は可能であるか。

(事務局)

- ・休廃止鉱山において坑廃水処理を行う過程での利用など参考になる可能性もあり、今後事例があれば情報提供させていただけたらと思っている。

(委員)

- ・鉱山労働者代表者の委員からもご意見等をお願いしたい。

(委員)

- ・弊社では60歳以上の方が約半数。災害情報について高年齢の方向けの特集な

どがあつたらいいと思う。

(委員)

- ・ 以前いた中部管外の鉱山では毎週のようにいただいた情報を社内に事例教育していた。無災害に向けてまず「知る」ということが重要。災害事例の共有を強化していただけると良いと思う。DX化についても人手不足・高齢化を解決できる手段になると思うので、そうした事例紹介にも力を入れていただけたらと思う。

(委員)

- ・ 弊社でも人手不足が課題。40代クラスが少なく、技術伝承が上手くいかない状況となっている。若手向けの事例紹介に加えて、先ほどご意見があつたような高齢者向けの事例紹介なども展開をしていただけると良いと思う。

(委員)

- ・ 現在弊社では、会社と組合とが一緒になって巡視等の新たな取組等も実施し、無災害に向けて労使一体で取り組んでいるところ。
- ・ 若手を中心に危険感受性の欠如を感じているところであるので監督部からの情報提供で危険感受性の向上に繋がるものもあれば良いと思う。

(委員)

- ・ 弊社では監督部から色々な情報は提供いただけていると思っているが、社内での活用が上手くできていないと思っている。監督部からの情報のほかグループ他社からも災害事例の共有があるが、8割～9割は過去の類似災害になっているので、こうした災害を減らしていくことが災害自体を大きく減らすことに繋がると思っている。また、経験の浅い方に対する危険感受性の教育については課題であると思っている。引き続きご指導をいただけたらと思っている。

(以上)